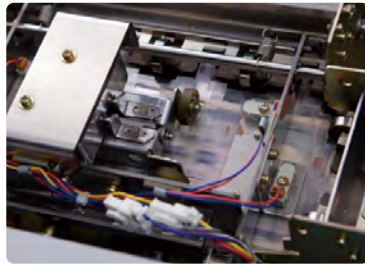


技術基盤

コア事業を支える技術

認識・識別技術

当社は、通貨処理という極めて厳正さが求められる条件下で認識・識別技術を研鑽してきました。画像パターンを高速演算処理で照合し、紙幣は1分間で1,000枚、硬貨は1分間に3,000枚と高速で流動させるなかで金種や真偽を見分けます。認識・識別技術は、税金や公共料金の支払票等の帳票の判別や、選挙の投票用紙に書かれた手書き文字の認識など、通貨処理以外の分野でも活用されているほか、厳密な個人認証を可能にした顔認証技術へと広がっています。



メカトロ技術

機械工学と電気工学を高度に融合させた当社のメカトロ技術は、人間の手で行うかのような細やかな作業や極めて複雑な作業を、驚くべきスピードで処理し、厚みやサイズの異なる各国硬貨を1分間に3,000枚のスピードで計数し、選別・包装しています。また、紙幣の表裏・天地を揃えて美しく束ねるなど、「数える」「仕分ける」「束ねる」の各工程で最先端の技術を活用しています。このメカトロ技術は、通貨処理機だけでなく自動化ラインの構築やロボットソリューション等にも活用しています。



新領域事業を支える技術

データアナリティクス

新領域事業の拡大に向けてデータアナリティクス技術を活用し、お客さまや社会のニーズをデジタル技術で具現化するデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進しています。データアナリティクス技術の強化を目的に、資本業務提携を行ったIoTベンチャーの株式会社アドインテと協働で、小売店・飲食店向けに集客率向上に向けたデータ活用サービス「BUYZO」を、2021年7月より展開しています。

DMP事業



生体認証技術(顔認証・骨格認識)

通貨処理機の開発で培った認識・識別技術は顔認証や骨格認識といった生体認証の技術として進化しています。顔認証システムは業界最高クラスの認証精度を誇り、セキュリティ対策はもちろん、業務の効率化や顧客サービスの向上に活用されています。また、生体認証技術は、医療・介護など新たな分野に広がりつつあります。当社グループは、人の骨格から姿勢を正確に認識できるAI画像認識技術を開発し、この技術を応用した転倒検知システム「mirAI-EYE(ミライアイ)」を発売しました。



技術を強みに変える知的財産活動

当社グループは、基本方針に「事業推進のエンジンとなる知的財産活動」を掲げ、国内外における発明等の創造と権利の取得を推進するとともに、「知的財産権の活用」や「他社特許調査による係争等のリスク回避策を講じる」ことにより、当社グループのブランド価値向上を目指します。

飲食市場における競争優位性の確保

飲食市場に関する特許出願は、「2026中期経営計画」の初年度である2024年度から急激に増加しています。現在、買収会社と定期的な発明発掘活動を行っており、これらの会社が把握しているニーズを基に特許を先取りし、特許ポートフォリオを構築しています。独自の仕様、技術を権利化することで競争優位性を確保し、事業を確立するためのベース作りに注力することで、最終年度である2026年度には、飲食市場に関する特許出願件数を2023年度より倍増させ、事業を知的財産面から支える計画です。

注力地域における出願強化

当社グループは、事業領域の拡大を優位にするため、知的財産部門と事業部門との連携による戦略特許の取得が重要であると認識しています。海外の主力市場で今後も成長が見込まれる米国については、知的財産部員を現地関係会社に出向させ、知的財産に関するリスクを低減させるとともに、競争優位性のある権利の早期取得への取り組みを強化することで、海外全体における米国の権利保有件数を増加させていきます。